

Study



Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	2
出願選考について	2
SA プログラムの単位認定について	3
出発までのスケジュール	4
University College Dublin	5
Fontbonne University	8
SA プログラム参加体験記	10
SA プログラムのサポート体制について	16

スタディ・アブロード (SA) プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。
密度の高い英語の授業と異文化体験によって、
世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。
英文学科には3つのSAプログラムがありますが、目的はそれぞれ異なります。
自分に合ったプログラムを選んで出願してください。

(1) 夏期 SA プログラム (University College Dublin)

アイルランド共和国の首都ダブリンの名門大学 University College Dublin (UCD) での、3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉学意欲を高めることが目的です。

(2) 秋学期 SA プログラム (University College Dublin)

夏期 SA プログラムと同じ UCD での 12 週間か 22 週間程の語学研修プログラムです。長期にわたって英語圏で生活し勉強することによって、さらなる英語力アップをめざします。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることも、大切な目的です。

(3) 秋学期 SA プログラム (Fontbonne University)

アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあるフォントボン大学で 16 週間か 24 週間程、正規の学生として、英語だけでなく、さまざまな分野の専門科目を学びます。アメリカ人学生と一緒に専門科目を学んだり、現地の人々や他国からの留学生と交流したりすることにより、英語力だけでなく専門的知識を身につけ、同時に異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めることを目指します。自国の文化への興味と理解を深め、国際的な視野を持つきっかけにすることも、目的の一つです。

●出願資格●

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる者
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる者

●選考方法●

夏期 SA プログラム (UCD) と、秋学期 SA プログラム (UCD とフォントボン大学) とでは、選考方法が異なります。

① 夏期 SA プログラム (UCD)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

② 秋学期 SA プログラム (UCD とフォントボン大学)

応募人数に関わらず、両方とも書類選考と面接試験をおこないます。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉学意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※出願に際しては、コースにより出願資格や選抜方法が変更になることがありますので、詳しくは秋に実施される SA 説明会に参加してください。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

単位認定

英文学科が実施する SA プログラムは 2 カ国 3 コースからなります。

いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、
帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、
本学の卒業所要単位として認められます。

※詳細は、「単位認定ガイドライン」にて確認してください。

●University College Dublin (UCD)

2つのプログラム（夏期・秋学期）は、いずれもユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン (UCD) の語学研修機関である UCD Applied Language Centre の English Language Courses のプログラムを受講します。

<夏期 SA プログラム>

8月に約3週間のコースとして開講される Summer Program に参加します。帰国後、所定の手続きや審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置されている「海外英語演習」4単位が認められます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、「海外英語演習」を履修登録する必要があります。

<秋学期 SA プログラム>

約12週間か22週間のコースを受講します。語学力向上のための授業が中心です。そのほか、社会や文化などに関する科目も用意されています。

帰国後、各自が現地で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。

※コース内容は毎年変更されます。

●Fontbonne University

約4ヵ月間あるいは約7ヵ月間の期間を選択します。フォントボン大学では、正規課程の授業と Intensive English Program(通称 ESL コースと呼ばれている英語集中授業)を履修することができます。

正規課程の開講科目は、文化、ファッション、メディア、ジェンダー、スポーツ、心理学など、幅広いジャンルにわたっています。現地スタッフのアドバイスを受け、自分の希望と英語力を考慮し科目履修を決めていきます。帰国後、フォントボン大学での修得単位を文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。



スケジュール

選考年度

10～11月 SA説明会

10～11月 出願期間

12～1月 選考および結果発表

実施年度

3～5月 ビザ・渡航説明会

事前指導

7～8月 危機管理ガイダンス・
直前ミーティングほか

8月 出発

(※夏期 SA に参加希望の1年生は4月に募集・
出願・選考)

参加決定後～SA出発までの準備

① パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します（取得費用は各自の負担）。すでにパスポートを持っていても、SA期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、更新手続きが必要です。

② SA先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の2月以降）

SA先大学への入学願書を記入してSA担当に提出します。その他SA先によって必要な書類がありますので順次、準備を進めていきます。

③ ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA参加にあたって、学生ビザの取得が必要です。ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスとなります。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④ 先輩の体験談（実施年度の3月～6月）

昨年度SAに参加した学生から、SA先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

⑤ 危機管理ガイダンス（実施年度の7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきかについて、海外旅行保険の使い方も含め詳しい説明をおこないます。

⑥ 英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

各国の入国管理局の指示により、米国の留学ビザ取得の際には、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります（4月の現地への入学申込書提出の際にも必要）。これは留学中の支払能力を証明するもので、2017年度は300万円以上が必要となりました（証明書発行後の預金移動は制限されません）。詳しくはSA説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑦ SA費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムのSA費用と奨学金はそれぞれ6、7、9ページに今年度概算を記載してあります。参加費用は為替レートの変動により、大きく変わることがありますので、余裕を持った資金準備をお願いします。7月頃、保証人宛への書類送付をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と相殺します。

⑧ 直前ミーティング

出発の約2週間前におこなわれるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA出発に向けた最終案内をします。

University College Dublin

基本情報



【所在地】 アイルランド ダブリン州ベルフィールド

【受入機関】 UCD Applied Language Centre

【対象】 夏 期：英文学科の1年生以上

秋学期：英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】 夏 期：25名以内 秋学期：10名以内

【留学予定期間】 夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）

秋学期：①9月上旬～11月下旬（約12週間）

②9月上旬～3月中旬（授業は約22週間）

（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】 大学内の寮またはホームステイ

●大学概要●

1854年に創設されたUCDは、アイルランドを代表する大学で、国際交流や留学生教育に豊富な経験を持っています。この優れた教育施設で、さまざまな国籍の学生と一緒に英語とアイルランド文化を学びます。UCDは、ダブリンの中心部からバスで15分ほどの静かな環境にあります。交通の便はよく、治安もとてもよい地域です。

●生活環境●

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で30分も移動すれば、ジェームズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。



【夏期 SA プログラム】

●授業の内容と特色●

授業は3週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター(Applied Language Centre)に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前9時から午後1時までの4時間が教室での学習時間です。初めの2時間は教科書を使用した総合的な英語学習、次の2時間はアイルランドの歴史や文化(文学、経済、社会、映画、音楽など)の学習にあてられます。午後には名所めぐりやアイリッシュ・ダンスなどの文化プログラムがあります。

【時間割例】(途中に適宜休憩が入ります)

1限・2限 9:00-11:00	英語総合学習(4技能)
3限・4限 11:00-13:00	アイルランドの歴史、文化等
午後	【ソーシャルプログラム】James Joyce Tower Museum 訪問等

※コース内容は変更されることがあります。

●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス内の学生寮、またはホームステイを選択できます。寮は一人部屋で、トイレ、シャワー、キッチン、リビングが共有となり、自炊です。キャンパスからは市内行きのバスが出ており、ダウンタウンにすぐ行くことができます。

●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

●2017年度実績●(ホームステイの場合)

航空運賃(空港施設利用料など含む)	218,630円
海外旅行総合保険料(全員加入)	9,090円
現地費用(授業料、登録料、宿泊費、送迎費など)※1	195,017円
(1ユーロ=130円で換算(1,500.13ユーロ))	
費用合計	422,737円
文学部奨学金※2	60,000円
参加者負担費用	362,737円

※1 その他の費用について

食費: ホームステイの場合、上記料金に食事代(平日2食、週末3食)が含まれます。寮の場合は、自炊、学食など別途、食費が必要です。

交通費: ホームステイの場合、通学バス代(約5千円程度)が別途かかることがあります。

その他: テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 文学部奨学金について

法政大学からの奨学金は5万円程度を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

【秋学期 SA プログラム】

●授業の内容と特色●

授業は12週間か22週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前または午後からの4時間が教室での学習時間です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、文法、エッセイの書き方、プレゼンテーションと英語漬けになります。さらに、週に2日午後の時間に、IELTS対策講座があります。帰国前には全員IELTSを受験します。

【時間割例】

1限・2限 9:00-11:00	EAS (総合的な英語学習・4技能)
3限・4限 11:00-13:00	Academic Skills
午後 14:00-16:00	IELTS PREPARATION

※コース内容は変更されることがあります。

●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス近くにホームステイします。

●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。

●2017年度実績（12週間）●

航空運賃（空港施設利用料など含む）	166,180円
海外旅行総合保険料（全員加入）	39,860円
現地費用（授業料、登録料、宿泊費、送迎費など）※1	976,824円
（1ユーロ＝130円で換算 7,514.03ユーロ）	
費用合計	1,182,864円
奨学金※2	220,000円
参加者負担費用	962,864円
（22週間の場合には参加者負担総額150万円程）	

※1 その他の費用について

食費：上記料金に食事代（平日2食、週末3食）が含まれます。

交通費：通学バス代（約5千円程度）が別途かかることがあります。

その他：テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 文学部奨学金について

法政大学からの奨学金は約20万円を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

Fontbonne University

基本情報



- 【所在地】 アメリカ ミズーリ州セントルイス
- 【受入機関】 International Affairs, Fontbonne University
- 【対象】 英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）
- 【参加人数】 8名以内
- 【留学予定期間】 ①8月中旬～12月中旬（約4ヵ月間）
②8月中旬～3月中旬（約7ヵ月間）
（留学期間は変更になる場合があります。）

【宿泊施設】 大学内の寮

●大学概要●

フォントボン大学は、男女共学のカトリック系4年生大学で、学生数は約2,800人、教員は414人であり、学生対教員の比率は7対1と少人数で学びやすい環境です。

●授業の内容と特色●

フォントボン大学では英語のレベルにより、履修できる学部正規科目の科目数が異なります。

■正規科目3～4科目を受講する場合：TOEFL iBT 61点、TOEFL 500点、TOEIC 650点、IELTS 5、もしくは英検準1級以上程度の英語の能力を有する者

■ESLコースと正規科目1科目を受講する場合：TOEFL iBT 46点、TOEFL 450点、TOEIC 500点、もしくは英検2級程度の英語の能力を有する者

【正規授業の一例】

英米文学や言語学の科目に加え、College Writing Skills, Introduction to Western Civilization, Women and Gender Studies, Argumentation and Debate, Mass Media, Interpersonal Communication, Public Speaking 等から選択できます。

【時間割の一例】 **正規科目**を4科目、ESLコースを2科目履修したある学生の時間割

	月	火	水	木	金
9:00-10:45		Public Speaking		Public Speaking	
10:45-12:15	Introduction to Sports Management	ESL Reading	Introduction to Sports Management	ESL Reading	
12:30-13:45	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills
14:00-15:15		Media, Technology, and Culture		Media, Technology, and Culture	

●生活環境●

大学のキャンパスは、高級住宅地やワシントン大学などに近い、閑静なたたずまいの中にあります。徒歩圏内には若者たちでにぎわうショッピング通りやスーパーマーケット、カフェなどがあります。

●宿泊施設●

参加学生は全員フォントボン大学のキャンパス内の学生寮（2人部屋）に滞在します。寮には自動販売機、電子レンジ、レクリエーションルーム、コインランドリー、24時間使用可能なコンピュータラウンジなどが備わっています。シャワーはフロア毎の共同です。キャンパスは校舎外も含めてワイヤレス・インターネット環境です。週に14回程度の食事付で、学内には2カ所の食堂があります。

●費用について●

下記の費用は2017年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。



●2017年度実績●

航空運賃(空港施設利用料等含む)	305,980円
海外旅行総合保険料(全員加入)	51,960円
現地費用(授業料、送迎費用、アクティビティ費用など含む) ※1	1,563,294円
(1ドル = 110円で換算) 14,211.76ドル	
費用合計	1,921,234円
奨学金 ※2	200,000円
参加者負担費用	1,721,234円
(7ヶ月間の場合には参加者負担総額 250万円程)	

※1 その他の費用について

テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 文学部奨学金について

法政大学からの奨学金は約20万円を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。



貴重な経験

2017 年度 UC ダブリン夏期
池谷 美波

アイルランドで過ごした3週間は、私にとって貴重な経験になりました。

授業は月曜から金曜まで、120分の授業が1日2コマありました。クラスはUCDでのテストの結果で振り分けられました。文法を中心に行う授業と文化を学ぶ授業がありました。最初は授業についていけない不安でしたが、素敵な先生方のわかりやすい授業のおかげで、楽しみながら学ぶことができました。中でも劇をしたり、ポエムを書いたりしたことは、とても印象に残っています。2つのグループに分かれて『ドリアン・グレイの肖像』の劇をしました。セリフは自分たちで考えたので大変でしたが、先生や職員の方も見に来てくださったので嬉しかったです。バスの路線が同じだったこともあり、同じクラスの中国人の女性とは様々な話をすることができました。中国では、日本のアニメや漫画がとても人気で、彼女が私よりも、日本のアニメや漫画に詳しくだったので驚きました。

午後はソーシャルプログラムに参加したり、シティーセンターという街に出かけたりしました。ソーシャルプログラムでは、先生方がダブリン市内の観光地や名所を案内してくださいました。ガイドの方の英語での説明は難しかったですが、理解できたときはとても嬉しかったです。休日には、自分たちで電車に乗り、ゴールウェイという街に行きました。有名なお店でフィッシュアンドチップスを食べたり、大聖堂を見たり、楽しい時間を過ごすことができました。運賃を余分に取りられてしまうというハプニングもありましたが、今となっては良い思い出です。

私のホストファミリーは5人家族で、私以外にスペイン人の女性がホームステイしていました。初めてのホームステイでとても不安でしたが、温かく迎え入れてくださり、楽しく過ごすことができました。私のホストファミリーはいつも忙しくしていたので、一緒に出掛けるということはありませんでしたが、食事の時には様々な話をして盛り上がりました。今日一日の出来事を話したり、犬と一緒に遊んだりしました。アイルランドとス

ペインと日本の違いについて話した時は、文化の違いを感じる事ができました。お土産に持って行った日本のチョコレートを苦いと言っていたので、とても驚きました。私は第二外国語としてスペイン語を勉強しているので、スペイン語で自己紹介をしたり、日本語での自己紹介の仕方を教えてあげたりしました。最後にホストマザーが、「来た時より英語が上手になったね!」と言ってくれたことが本当に嬉しかったです。その言葉のおかげで自信を持つことができました。

この3週間を通して、様々なことを経験し、私自身成長できたのではないかと思います。また、英語で会話をする楽しさや自分に何が不足しているのかを改めて感じる事ができました。この経験を活かして頑張りたいと思います。



UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記②

人生初の海外経験

2017 年度 UC ダブリン夏期
齋須 滉生

現地での滞在先は学生寮とホームステイのどちらかを選択することができましたが、私は初めての海外渡航ということもあり、周りに迷惑をかけることも少ない寮を選択しました。寮の近くには学生向け価格のコンビニがあり、料理のできない私でも食事に困ることはありませんでした。また、もちろん日用品も取り揃えてあります。

日々の授業では先生方も自分の英語レベルに合わせたクラス編成・クラス移動をスムーズに行ってくださった他、その都度わからない英語表現が無かったかを丁寧に尋ねてくださったので、まったくストレスを感じることはありませんでした。授業内容は、1 時間目が英語表現の勉強、2 時限目がアイルランドの歴史についての勉強でした。

平日の放課後や土日は自由時間となっているため、様々な教会や博物館などを観光してアイルランドの深い歴史に触れることができました。特に、Trinity College Dublin 内にある Book of Kells は必見です。

初めに述べた通り、私はこの SA プログラムが人生初の海外経験でした。もちろん出発前はとても緊張していましたが、不安もありましたが、現地の方々は皆とても優しくフレンドリーで、日本ではありえないような体験もいくつもすることができましたし、今回の SA で、自分自身も他の色々な国にも行ってみたいという気持ちが高まりました。

実は私は大学入学前からどこか英語圏の海外に行ってみたいと思っていて、ちょうど今回この SA プログラムを自身の海外へのスタートラインにしてみようと思い立って入学後すぐに申し込みました。文学部英文学科に所属しているのなら、是非この機会にアイルランドを訪れてみてください。

そして次年度の SA プログラムへの参加を考えている方へ、私のような海外未経験の人でも気軽に参加することができるので、悩んでいる方はぜひ参加することをお勧めします!(アイルランドは気候の変動が激しいので、服装には十分気を付けてくださいね。)



成長を実感

私が留学をしようと思ったきっかけは、危機感でした。英文学科ということもあり、学科内の同級生の多くは留学をするなど、英語に積極的に関わろうとしていました。そのため、私も何か行動を起こさなければならない、という危機感から SA 参加を希望しました。また、私は英語力に自信がなく、このままではまずいという思いもありました。そこで、留学をすれば少しは英語力に自信がつくと思い SA に参加しました。

UC ダブリンでは、初日に行われる 4 技能のプレースメントテストの結果に基づきクラス分けがされます。朝 9 時から 2 時間弱の授業を 2 コマ、週 5 日で受講します。それに加え、毎週火曜日と木曜日には IELTS 対策の授業があります。英文法やエッセイの書き方、プレゼンテーションのやり方などを学びました。内容はそこまで難しいものではありませんが、英語で学び、ネイティブの感覚を教えてください。さったため、すべてが新鮮でした。

私たちが学習していたのは、UC ダブリンの中の語学学校のような施設で、現地の学生はいませんでした。それでも、中国や韓国、クウェート、サウジアラビアなど様々な国籍の学生と交流することができました。特にアラブ諸国の方たちは、日本とは文化がまったく異なり、話すたびに新しい発見があり、非常に面白かったです。

ホームステイ先では、家族が温かく迎え入れてくれました。ステイ先の家族が話す英語は、少し訛りがあり聞き取るのに苦労したときもありました。しかし、私が理解するまで何度も繰り返してくれました。また、私の英語を一生懸命理解しようとしてくれました。食事面では、現地の料理をおいしく振舞ってくれました。さらに、生活面でも、洗濯やハウスキーピングを頻繁に行ってくれました。そのため、何不自由なく 3 か月半過ごすことができました。

2017 年度 UC ダブリン秋学期

市原 幹久

SA に参加し、以前よりは英語力に自信がついたと思います。留学前まではリスニングに対して苦手意識がありましたが、現地ですべて英語の授業を理解できるまでに成長できました。また、この留学で異なる文化を学ぶ楽しさを知りました。食事のマナーや服装など、ネットや教科書に載っていることでも、実際に目で見なければわからない点もあり、他の文化をもっと学びたいと思いました。さらに、多文化をみることで日本の文化の良さ、悪さを見ることができました。



多国籍文化を経験

大学を入学する前から大学生のうちに留学をしてみたいという夢があり、今回 SA プログラムに参加することとなりました。主には英語力のスキルアップを目的として参加しました。

現地ではホームステイという形で滞在し、家にいるときは常に英語を使う生活を送りました。英語のみで生活することに初めは戸惑いましたが、ファミリーがフレンドリーに接してくれたおかげでたのしく過ごすこともできました。洗濯やシャワーのルールなどは各家庭によって違いましたが、私の場合は2日に1回は洗濯をきちんとしてもらえて、シャワーも負担になるようなルールのもとではなかったので快適に過ごすことが出来ました。

学校では多国籍なクラスメイトと交流をし、英語でコミュニケーションをとることでリスニング力や自分の意見を伝える力を養えることが出来ました。授業内容としては教科書や先生の用意してくれた資料を中心にペアワークやプレゼンテーションなどを行い、アカデミックな英語力の幅を広げることが出来ました。休日は国内の観光（美術館、博物館、ビール工場等）やヨーロッパのほかの国へ旅行に行き、アイルランドのみでなく多国籍な文化に触れることが出来ました。平日は授業がお昼過ぎに終わることもあったので、放課後は友達とシティまで行ったり家の近くのスーパーで買い物をしたりすることに時間を使いました。

英語力や判断力、伝えようとする力、グローバルな視点を身に着けることができ、今回の留学はとても実りの多いものとなりました。今回私は3か月半という短い期間でしたが、大学生の時間を自分のために自由に使える時期にこのプログラムに参加することができてとても良い経験をするこ

2017 年度 UC ダブリン秋学期

白川実菜恵

ができて人生における大事な思い出になったと思います。



失敗の経験こそが成功の鍵

ルームメイトとの部屋での何気ない会話が、何よりもかけがえのない時間でした。

初めて出会った日に、「自分が話す英語で間違えているところは全て指摘してほしい」と伝えていたので4か月間毎日親身になって教えてくれました。毎日が新しく成長を実感することができました。帰国する際に、2人きりで遊園地に行き絶叫マシーンを1日中堪能し、その後彼の家で互いの将来の夢を一晩中語り合ったことは、一生忘れることのできない思い出です。彼に出会えたことに感謝しています。

ESLとAcademicの授業を2つずつ受講しました。ESLでは、英語学習だけでなく、様々な国の文化や習慣も学ぶことができました。Advancedのクラスであったため生徒の英語レベルも高く、授業内容も濃いものでした。第一言語・バックグラウンドが様々な「英語」を使うことでコミュニケーションが取れることを体感できたことも財産です。

印象的であったのが、他国の留学生たちが、文法や表現が多少間違っていようと自分の英語に自信をもって堂々と話していたことです。日本でも知識としては持っていましたが、正しい英語を話すこと以上に「伝えようとする意志・姿勢」がいかに大切であるかを体感しました。アメリカで長く英語を勉強している同じクラスの中国人の英語を流暢に話す女子生徒が、簡単な英文を授業の最初のSmall Talkで間違えていたことがありました。(現在形と過去形であったと思います)その時に、「これだけ英語が堪能な方でも簡単なことを間違えるのだから、自分が間違えるのは当たり前だ」と開き直り、間違えることがそれ以来全く恥ずかしくなくなりました。むしろ成長のチャンスと捉えられることができるようになり英語スキルの成長を実感することができました。

2017年度フォントボン秋学期

加藤蒼士

Academicのクラスでは、Psychologyの授業に学習の喜びを見出すことができました。TED Talkのプレゼンを聞いているかのような魅力的でCreativeな教授でした。週に1度、4時間連続の授業で、毎週大量のReading課題やテストが課されましたが、授業が楽しみでしかたがありませんでした。授業後の質問対応も快く引き受けてくださり、毎回話す時間を作ってもらっていました。感謝しています。

様々な困難もありました。至らないリーダーでもありました。ですが、現地の学生やスタッフ、法政大学の国際課、文学部の担当の方々、携わってくださった全ての方々の献身的なサポートのおかげで人間的にも成長できた4か月間でした。この経験を生かしていきます。間違えることを恐れずに。日本を飛び出し学びに行くことは、楽しい経験だけではなく辛いことも多くあると思います。ですが、帰国した今思うことは「失敗の経験」こそが成長するための鍵であるということです。確かに多くの費用が掛かります。ですがそれを自分の行動次第で安くできると思います。これから行く皆さんに何か参考になることがありましたら、ありがたいです。



フォントボン大学・秋学期 SA プログラム体験記②

出会いが出会いを呼ぶ - SA での経験を夢に繋げて -

2017 年度フォントボン秋学期
岩瀬仁志

出会いが出会いを呼ぶとはまさにこのことである。

私はフォントボン大学で2週間ほど過ごしたある日、現地のある人へメールを出してみたのだった。長年夢であったラビへの対面。

英文学科ではユダヤ人作家による有名な著作をいくつか読んでおり、ユダヤ人の文化についてもっと知りたいという思いがあった。

初めてユダヤ教の施設に訪問した時、暖かく私を招き入れてくれた。ふと思いたち、アメリカのユダヤ人学生はどのような生活をしているのかきいてみると、お隣の大学のコミュニティを紹介された。

ワシントン大学には2つのユダヤ人のためのサークルがあり、そこで文化享受や交流活動が行われているという。そしてその2つの場での新たな出会い、そして、フォントボン大学のユダヤ人学生と知り合うことができた。

週末にはそれらのアクティビティに参加し、新年祭やスーコット、そしてハヌカ祭を現地で経験することができた。

フォントボン大学では正課6科目を履修し、そのうち2つの授業でこれらの私が研究した成果を日本文化と対比することによって発表し、さらなる理解を深めることができた。

さらにニューヨーク視察中には2016年度の夏季UCD留学中に知り合った女性にブルックリンのユダヤ人街を案内していただいた。

2018年の1月～2月にはイスラエルのヘブライ大学で現代ヘブライ語の語学留学を経験する。アメリカで学んだ知識や経験そして絆をいかして、こちらについても積極的に挑んでいく所存である。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

●海外旅行総合保険●

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

●24 時間対応の電話アシスタンスサービス●

① 病気やケガの対応

現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのようなときに、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けることができます。

② トラブルの対応

留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、SA 担当および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

●SA ポータルサイト●

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、SA 担当に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがありま

す。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期間中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

●グローバル教育センターSA 担当●

SA 担当では、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

（58 年館 2 階グローバル教育センター内）

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

●文学部担当●

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9325

窓口時間

月～金 9:00～17:00（11:30～12:30 を除く）

土曜日 9:00～12:00

【UCD秋学期・フォントボン参加者対象】

2018年度 英文SA単位読み替えに関するガイドライン

SAで取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) SAで取得した単位は、年度ごとに22単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、またはILAC科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2)で規定された単位数とSA先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として2)で規定される単位数の6割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修B群の「SA認定科目(B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8単位を上限として選択必修A群の「SA認定科目(A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修A群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は4単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修C群の「SA認定単位(C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修C群として認定されることがある。
- 4) ILAC科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、SA先で4技能(reading, writing, speaking, listening)が連動した英語科目の単位を取得すること。

③ 申請方法

- 1) 1st term履修決定のころ(10月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。
- 2) 長期参加者は、2nd term履修決定のころ(2月頃)に2nd term分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに1st termで達した方のみ)にて申請、提出する。

以上